

要旨

野生の生き物たちが生息できる自然環境が年々減少していく中、身近な生き物呼び寄せのため、ビオトープをつくることになった。ビオトープをつくる過程で出会った昆虫や爬虫類、両生類などを紹介し、今後の展望を考察する。

1. 研究の背景・目的

2023年1月、新設した桜丘高校野球部のグラウンドの余剰地を生物部が自由に使ってもよいことになった。我々はそこに地域の人々と共に生物多様性の世界を体験できる場とすることを目標に、ビオトープをつくることに決めた。

2. 方法

もともとは水田だった場所を埋め立てただけの裸地であった。その後、春になって雑草が生い茂る草原に変わった。そこに池を掘り水辺の環境を、さらにはクヌギの苗を植え、樹木のある環境を整備した。これは生き物の住みやすい環境をつくり、生物多様性を実現するためである。

水辺の環境は、部員がスコップで掘った小さな池、中くらいの池、重機で掘った大きな池、廃船を利用した池の4つの池をつくった。

樹木は、昆虫を呼び寄せる樹液を出すクヌギの苗を30本ほど植えた。豊橋市にはクヌギの樹木はほとんどなく、類似したアベマキが多数見受けられる。しかし朝倉川沿いに植樹されている木がクヌギだと判明したため、秋にドングリを拾い、冬に発芽させたものを植樹した。



ビオトープを作り始めたところ (2023年4月中旬)



完成した池



クヌギの苗

ビオトープで見つけた生き物たち



アマガエル



エンマコオロギ



ヤモリ



キジ

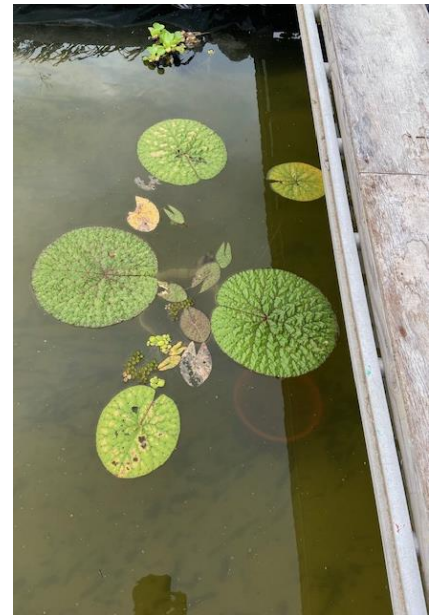
他にも、マムシ、ヒバカリ、ハイイロゲンゴロウ、ジョロウグモ、ヌマガエルなども発見



近くを流れる朝倉川から移植したアサザ



向山大池から移植したコウホネ



大きな池【掘っているところ・完成した池・オニバスを植えたところ】



廃船の利用【利用前・池として利用・おびたしいオタマジャクシ】

3. 結果

野球場造成のために埋め立てられた土地であるが、もともと水田地帯の低湿地だったため、生物種が多様で、ビオトープをつくりながら多くの生き物に遭遇した。

特に池をつくるとすぐにカエル（ヌマガエル、アマガエル）が産卵し、オタマジャクシが泳ぎだしたのには驚いた。またハイイロゲンゴロウは群れで観察できた。

池にクロメダカを導入したところ、元気に泳ぎ回り、よく繁殖した。



石を積み上げて、爬虫類、両生類、昆虫などを呼び寄せる「多孔質空間」を作った。2つ作り丸太を渡し、人が歩けるようにし、生き物と人との調和を考えた。

4. 考察

ビオトープを造っている沖野地区は、豊川氾濫時の水を逃がす霞堤にあたり、低湿地の肥沃な水田地帯となっている。水田とその周辺の用水路には、ナマズ、メダカの生息地として有名であり、コオイムシ、カブトエビ、ホウネンエビ、カイミジンコ、ギンブナ、ドジョウ、などの水辺の生き物が豊富な、いわば天然のビオトープである。しかし近年、カダヤシ、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の繁殖がすさまじい。クロメダカはカダヤシの繁殖により減少したとみられ、2023年の調査では発見できなかった。

我々のビオトープはまだ造成開始から1年も経っていないにもかかわらず、すでに周辺から集まってきた多様な生き物が観察できることから、今後はさらに生物種が増えていくものと考えられ、調査・観察を続けていきたい。

5. まとめ—今後の展望

ビオトープ内の通路を整備し、一般の方々が歩きやすいようにしたい。

クヌギの樹液には集中して吸汁性昆虫が集まることが期待される。昆虫が集まる程度にクヌギが成長するのに5年以上かかるため、我々から後輩たちに引き継いでいきたい。

池にオニバスとアサザをたくさん増やしていきたい。特にオニバスは貴重なので、これを多くの人たちに見てもらいたい。



ビオトープ内に設置した看板



ビオトープ入口に建てた門